

走らない運動会 コミュニティの輪を世代を超えて育む



▲秋晴れの空の下、200人以上の住民が参加した。 2021（令和3）年10月19日

写真提供 南三陸町社会福祉協議会

2017（平成29）年10月14日、結の里が隣接する志津川東災害公営住宅中央広場で「走らない運動会」が行われた。

かつては町の地域毎に運動会が開かれ、子どもからお年寄りまでみんなが楽しんでいたが、歌津・志津川両町が合併して南三陸町になってからは、入谷地区以外の地域では開催されなくなっていた。

住民有志が日々手入れをしている美しい芝生の中央広場なら、小さな子どもたちも高齢者も安心して運動できる。この広場で運動会を復活させよう。結の里で活動している住民たちと社会福祉協議会のスタッフが、アイデアを出し合った。

走らなくてもみんなで参加できるゲームを、毎年工夫を凝らして考え出し、「走らない運動会」は毎年行われるようになり、住民たちの秋の恒例行事になった。

新型コロナウイルスにも負けず、接触を減らして楽しめる競技内容を工夫した。ボールを転がして渡すリレーや、1人2球だけ投げる玉入れなど、走らなくても楽しめる種目をみんなで楽しんだ。

身体を動かす場は、心を開放的にし、前向きな気持ちにさせてくれる。多世代が共に楽しむ場は、それぞれの生きがい作りにも直結する。